

就学前教育実践の手引き



新しい指導事例 平成25年度追補版

摂津市教育委員会 こども教育課

わらい

- 安定した保育者との関係の中でゆったりと食事、授乳をする
- 離乳食や幼児食を喜んで食べる
- いろいろな食物を味わう経験を通じて自分から進んで食べる



経験する内容

- ミルクを飲む
- 離乳食を食べる(いろいろな食材になれる・いろいろな味の離乳食を食べる)
- 離乳食から幼児食へ移行する
- おなかが満たされる感覚を味わう

子どもの姿

- おなかがすいたときは“泣く”など表現する
- 保育者に抱かれ語りかけてもらいながら満足するまでミルクを飲む
- 保育者の語りかけや援助により食べさせてもらったり、手づかみやスプーンで自分から意欲的に食べたりする
- 落ち着いた雰囲気の中で身近な人と一緒に食べることで心地よさを感じたり食べることを楽しむ



環境・援助で気をつけること

- 授乳のときには目線を合わせ、優しく言葉がけをしながらゆったりとした気持ちで飲ませる
- 個人差に応じて授乳をおこなう
- 一人ひとりの子どもの状態に応じて、離乳を開始し完了する
- 食べようとする意欲を大切にしながら、子どものペースに合わせて援助する
- 楽しい雰囲気の中で食べられるようにする



ねらい

- 大好きなことを見つけて楽しく関わる子ども
- いろいろなことに興味や関心を持ち、やってみようとする子ども
- 体を使って思い切り遊ぶ子ども
- 出来ることを喜び、満足感を持つ



経験する内容

- 基本的な体の動きを経験し組み合わせて遊ぶ。
○体のバランスをとる動き（立つ、座る、ぶら下がる、回る、渡る、）
- 体を移動する動き（歩く、走る、はねる、跳ぶ、登る、降りる、這う、滑る）
- 用具を操作する動き（持つ、投げる、運ぶ、転がす、蹴る、押す）など
- 友達の動きを見たり、保育者の動きをまねたりして楽しむ

子どもの姿

- 保育者の動きをまねして、ジャンプしたり、「よーいどん」の合図で目的まで走っていく
- ボールを相手に向かって投げたり、蹴ったりする、転がったものを取りに行き遊びを繰り返す
- 鉄棒や吊り輪に両手でぶら下がり両足を地面からはなし手で体重を支える。
- 滑り台の階段を登ったり傾斜面で滑ることを楽しむ。「もう一回」と言いながら繰り返し遊ぶ。
- 友達がしているのを座ってみながら自分の順番がくるのを待つ
- 乗り物にまたがり、両足を使って交互に蹴って進もうとする
- 室内では、マットの山を歩いて登ったりハイハイで登ったりする。トンネルや保育者の足の間をくぐる。

環境・援助で気をつけること

好きな遊びを選ぶことが出来るように、配置など考え、準備しておく

- 危険のない様に要所要所に保育者がつき見守り、安全に気をつける
- ボールなどの遊具を入れる箱には、写真を掲示し、遊びが終われば所定の位置に片付けることを知らせる
- うまく体を動かせない子どもには、丁寧に要領を教えたり、見本を見せる

2歳児

集団遊び(むっくいくまさん、 こどもの王様、わらべ歌等)



わらい

- あそびを通して簡単なことばのやりとりを楽しみ、言葉を豊かにする。
- 一対一のアそびを経て、仲間、集団でアそぶ楽しさを共有、共感する。
- 人と触れ合う心地よさを実感し、親しみやつながりを求める。
- 相手を受け入れたり、自分の思いをコントロール出来るようになる。



経験する内容

- 絵本で親しんでいるわらべうたを楽しむ。
- わらべうたを通して、友だちとスキンシップをとり、楽しむ。
- 逃げたり、追いかけたりすることを楽しむ。
- 親しみやすい歌で鬼ごっこをする。

子どもの姿

- 友だちと一緒に同じアそびを楽しめるようになる。
- 簡単なルールのあるアそびに興味を持つ。
- アそびの中で、わくわくした気持ちで自分の順番を待つ。
- 友だちや保育士と目を見合わせて、一緒に歌ったり、模倣したりする。

環境・援助で気をつけること

- 繰り返して楽しむことで、「友だちと遊ぶと楽しい」という気持ちや、「違う遊びもしてみたい」という意欲を高められるよう配慮する。
- こども達の姿に合わせてルールを工夫し、皆が楽しめるものにする。

異年齢で取り組む体力づくり

3 歳 児

4 歳 児

5 歳 児

ねらい

- 体力づくり
- 異年齢関係を通して思いやりや優しさを育む
- 大きい子のしていることを見て真似てやってみようという意欲を育てる



経験する内容

- 堤防の土手を登ったり下りたりする事で体力作りを図る
- 年少児が困っている時は、声援をしたり手助けをしたりする

子どもの姿

- 年齢別でするときには、競争心や頑張ろうとする姿がある一方で、大きい子が小さい子の様子を見て、自然に手助けをしている姿も見られる
- 小さい子は大きい子のしている姿を見て、予測を立て真似てやっている

環境・援助で気をつけること

- 雑草アレルギーなどの子には、着替えやうがいさせるように気をつける。
- 少しずつ、無理せず体力をつけていけるようする。
- 下りの時は勢いを付け過ぎないように、言葉かける。

4 歳児 子ども達が安心して活動に参加できるように



わらい

- 子どもが自分で考え行動できる。
- 子どもが安心して取り組める。
- 行事の内容がどんなものなのかをイメージできる。

経験する内容

- 運動会や発表会などいろいろな行事がある中で、並び順番、白線の上での立ち方、楽器の持ち方など視覚に訴える表示を見て把握したうえで、練習や本番に取り組む。
- 自分で見てわかるということにより自信をもつことができる。

子どもの姿

- 運動会や発表会など、4歳児にとってははじめての行事ということもあり、不安を感じる子どもたちが多い。そんな中で並び方や、道具の持ち方など、わかりやすい表示があることで、動きを把握して練習に取り組むことができ、身につけやすい。
- 言葉だけの指示が難しい子どもたちだけでなく、他の子どもたちも写真表示があることで安心できる
- 楽器の発表会前後は好きな遊びの時間、楽器遊びができるよう部屋に楽器を置いている。部屋に貼ってある表示を見て、楽器の正しい持ち方を知ることができる。遊びの時間に楽器にふれることが増え、“発表会ごっこ”を楽しんでいる。

環境・援助で気をつけること

- 写真や絵でわかりやすい表示づくりを心がける。
- 必要な表示と必要でない表示を子どもの様子を見て判断し、部屋に表示が多くならないように気をつける。
- 子どもの実態に応じて工夫をする。

4 歳児

落ち葉で作品をつくる



ねらい

- 季節を感じることでできる子ども
- 自然に興味を持つ子ども
- お友達と季節の様子を話し合える子ども
- 創意工夫のできる子ども



経験する内容

- 秋の終わりに落ち葉拾いを楽しむ。
- 友達や先生と季節について話し合う
- 落葉等を使った作品作りを楽しむ

子どもの姿

- 落葉を拾いながら葉の色や種類に興味を持つ
- 作品を作り、友だちと見せ合うことで、いいところを共感し自信を持ち個性を尊重する。

環境・援助で気をつけること

- 「これは何の葉っぱかな？」などと興味をもつ声かけをする
- 拾ったものについての話を聞き共感する。
- はさみなどで怪我のないように気をつける



和太鼓に取り組む

4 歳 児

5 歳 児

わらい

- 姿勢を正しくし保つことができる。
- 挨拶することができる。
- 話を聞いて、行動することができる。
- リズム感や集中力を養うことができる。
- 日本の伝統楽器に触れ慣れ親しむ。
- 演奏することで、協調性を養うことができる。



経験する内容

- 姿勢を正し、話を聞く
- リズム応答をする。
- 曲太鼓や創作太鼓のリズム打ちを繰り返し練習し演奏する。
- 地域行事への参加、老人施設への訪問

子どもの姿

- 和太鼓をする姿勢（気持ち）になり、機敏に行動しようとする。
- 指導者の話、リズムを聞き、模倣しようとする。
- 力強くたたき、自分の太鼓の音に自信を持つことができる。
- 全員で合わせて演奏することにより、音の重なりを楽しみ、出来た喜びを友だちと共有することができる。

環境・援助で気をつけること

- 普段の保育とは違う雰囲気の中、規律ある行動がとれるように緊張感を持てるようにする。
- 指導者が姿勢を正しくし、声をしっかり出して挨拶することで、子ども達も和太鼓をするという気持ちを持つことができるようにする。
- 自分のことだけでなく、他の友だちがしていることも見て、応援できるようにする。
- 上手に出来たときは、必ずほめ自信につなげ、意欲を持つことができるようにする。

5 歳児

お店の品物作りと異年齢でのお店屋さんごっこ

ねらい



【つながる力・学ぶ力】

- いろいろなことに興味や関心を持ち、やってみようとする子ども
- できた喜びを感じる子ども
- 経験したことや考えたことを友達と伝え合う子ども
- 話し合ったり考えたり作ったりする中で、創造性や協調性、社会性を養う。
- 異年齢児との売り買いを通して、自分の役割や交わす言葉の大切さに気づく。

経験する内容

- みんなでどんなお店がしたいか話し合ったり、作りたい品物を発表したりする。
- 廃品廃材、いろいろな素材を組み合わせて、お店に必要な品物作りをする。
- 年少児に買いに来てもらえるようなレイアウトや宣伝方法などを考える。
- お店屋さんごっこに参加する中で、売る側と買う側のやりとりを楽しむ。



子どもの姿

- 以前から好きな遊びの時間に、廃品廃材・素材を使って品物や広告を作り、お寿司屋やハロウィンパーティー、マクドナルドの店などに年少児を招待する姿がみられていたので、スムーズにお店屋さんごっこに取りかかることができた。
- 自分で考え工夫したり、友達の作品を見て参考にしたり、保育者の言葉を聞いたりしながら、楽しく品物作りに取り組んでいた。
- 自分たちで品物を並べたり、交わす言葉を考えたりして、保育者と子どもたちで何度かお店屋さんごっこを楽しみ、雰囲気をつかんでいった。
- 年少児が買いに来てくれた時には全員が店員となり、説明を交えて売ろうとする姿や、雰囲気がつかめず品物を手に取れない子どもに対して、「オマケにこれもつけてあげる！」と優しく対応する姿が見られた。

環境・援助で気をつけること

- お店屋さんごっこのいろいろな事例を伝えたり掲示したりして、子ども達がイメージできるようにする。
- どのような廃品廃材、素材があるかを知らせたり、組み合わせ方の例を伝えたりして、イメージしたものが具体化できるようにする。
- 素材をくっつけたり、頻繁に使ったりする用具(セロテープやティッシュ・新聞など)は、子どもがすぐに使える場所に十分な量を置き、スムーズに制作ができるよう物的環境を整える。
- 子どもの興味や進み具合に応じて、廃品廃材、素材の提供を臨機応変に行う。
- 売れ残った品物も、最後のタイムバーゲンを開催し、職員が店員になって売る等、自分の作った品物が売れた！という達成感を味わえる工夫も必要である。

就学前教育実践の手引き



**新しい指導事例
平成25年度追補版**